

中国（唐）の影響の方があったようである。A6 においては天的なものと自然を見ようとするものが混在していたと思われるが、A7, 8 にいたって自然を見ようとする気風が現れてきた。

(5) 日本にあっては、中国（唐など）の影響を受けてこれを日本化していくプロセスが自然を見る目にも強く伺える（A10）。しかも時代を経るにしたがって、これは次第に世俗化・平民化してゆき（A11→A12）、そのうちに種々の因子を持つ意識をそれぞれ独自に働かせ、自然についてはリアリズムが現れてきた気風が見られる（A13）。

この論文を作成するに当たっては、大妻女子大の大沢清二教授から貴重なコメントと文献を教えていただいた。また、同大学の千羽喜代子教授にもこの論文作成上いろいろお世話になって感謝に耐えない。ここに厚く御礼申し上げたい。

参考文献

稲垣 敦, 大沢清二ほか, 1989: 短距離走の動作に関する主観的情報の構造, 体育学研究, 34, 3,

201-214.

D.A. ドンディス (金子隆芳訳), 1985: 形は語る, サイエンス社, 146-165.

Gedzelman, S.D., 1989: Cloud classification before Luke Howard, BAMS, vol. 70, 344-395.

小林一雄, 1973: 中国文化史の研究, 新樹社, 159-167.

宮本長二郎, 1985: 朝鮮美術, 平凡社大百科事典, 1009-1012.

大沢清二, 1990: 健康認識の構造と評価, 学校保険研究, 32, 7, 310-313.

岡 順次, 1969: 古典美術に現れた雲, 科学史研究, II, 岩波書店, 8, 194-202.

辻 惟雄, 1985: 日本美術, 平凡社大百科事典, 460-464.

内田英治, 1990: 日本における8世紀から18世紀までの雲観察の要因解析, 天気, 37, 3, 185-192.

山岡泰造, 1985: 中国美術, 平凡社大百科事典, 858-859.

吉田光邦他, 1980: 日本の文様, 15, 天象, 光琳社出版 KK, 2-58.

渡辺素舟, 1971: 東洋文様史, 富山房, 358-377, 668-681.

≡≡≡ 新用語解説 (34) ≡≡≡

「収束雲帯（帯状収束雲）」 の一部訂正

天気38巻11号の表記の解説で取り扱った用語「収束雲帯」に対する小倉氏のコメント（会員の広場）に基づきこの解説の一部を以下の通り加筆訂正します。

(1) 本文12～15行目『なお収束帯の呼び名は……が適当であろう』の後に続けて、『また、雲帯又は帯状雲の呼び方についても、収束という、多くの雲に共通する性質を表わす形容語を付ける意味がなく、従って表記の用

語は適当ではないから、今後は用いないようにして、代わりに例えば日本海（寒帯気団）収束帯（の）帯状雲又は同じく雲帯という呼び方をするのがよいと考える。』を加える。

(2) 本文20行目『収束雲帯』を『日本海収束帯の帯状雲（雲帯）』に替える。

（気象研究所 永田 雅）